

講義名	心理学演習（カウンセリングで使うコミュニケーション）			
担当教員	銅直 優子			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	演習	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

心理カウンセリングとは、個人の悩みや迷いなどの問題を解決することを援助する学問である。個人の問題を解決する為にはいろいろな技法があるが、その基本となるものは、話を聞く側の価値観や思い込みなどを相手に押し付けず、正確にその人の話を理解していくことである。

本講座では、相手に訪れた人に対してどのように話を聞いていけばよいのかということを中心に学習していただく。小グループを作り、ロールプレイ（受講生が采訪者役やカウンセラー役になり話しをする）を通し実際に話を聞く又は、聞いてもらうという体験をしてもらう。ロールプレイの際には、自分の話しの聞き方について振り返りを行うためMPやビデオを使って実習場面を記録していく。また、この講座では、カウンセリング場面だけでなく、接客場面でも役立つスキルとなるため、商品選択を通して人々たちなどに対応する基礎的な力も習得できる。話を聞く姿勢が相手にどのような影響を与えるのかということを体験的に学習していくことを目的とする。

**到達目標**

人の話を援助的に聞くことができるようになる。  
自分の気持ちに対して援助的に関わることができるようになる。

**提出課題**

授業内で取り組んだことについて報告書を作成してもらうことがある。  
テキストに対するワークシート取り組んできてもらうことがある。  
実習で録音した逐語録を作成してもらう場合がある。  
オンライン授業にこうした場合は、提出課題の変更が生じるため、授業内で変更を指示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

提出していただいた逐語録については、授業の教材として取り扱い、授業内で解説を行う。  
テキストに対するワークシートについては、提出された段階に返却する。また必要に応じて授業内で解説を行う。

**評価の基準**

\* 授業の性質上、毎回の出席と授業への参加態度を重視する。  
\* 欠席が1-2回あるだけでも単位取得ができない場合がある。

授業への参加態度や実習の取り組み課題の達成度 50%  
最終レポート（もしくは、最終実技試験） 50%

対面授業が困難になった場合は、Zoomにて授業を行う予定であるが、評価基準の変更はない。

**履修にあたっての注意・助言他**

テキストを使用するので必ず購入して参加すること。  
本講座は、実習であるため、受講生は積極的にロールプレイに参加してもらわなくてはならない。その構えのある学生に受講していただきたい。基本的に欠席・遅刻は認めない。他の受講生に対して迷惑になるため（毎回実習内容が進んでいく「積み重ね方式」為、ロールプレイを組んだ学生に迷惑をかける）その可能性のある学生の受講は勧めない。また、欠席が目立つ受講生については、途中で受講を断念していただく場合がある。  
対面授業でロールプレイを精進に行っていたため、感染予防のルールを授業内で指導していくため、そのルールに従い、受講すること。  
本講座を受講する前に「カウンセリング」を履修していることが望ましい。

教科書				
.心のメッセージを聴く、	池見陽	講談社現代新書	¥ 820	

**プリント資料及び参考文献**

・「フォーカシングで身につけるカウンセリングの基本－クライアント中心療法を本場に役立てるために－」（近田輝行 著、コスモ・ライブラリー社、¥1,600）  
・「フォーカシング指向心理療法」 上・下（E・T・ジェンドリン 著、村瀬・池見・日登 監訳、金剛出版、¥3,800）

**授業計画**

- 1 カウンセリングとは
- 2 話を聞く（聴く）基本姿勢について  
- 解説・実習・検討 -
- 3-7 絶対傾聴 - 解説・実習・検討 -  
話し手の語りを理解する
- 8-9 話し手の語り方を評価する  
- 体験過程スケール -
- 10-13 また言葉にならない「気持ち」と対話をしていく方法について  
- フォーカシング技法を通して -  
- 解説・実習・検討 -
- 14 コラージュ作品  
- コラージュとは、心理療法の中で芸術療法として取り入れられているものであり、雑誌や写真などの切って、画用紙に貼っていくものである
- 15 コラージュ作品を題材に傾聴実習

\* 受講生の理解度、要望に応じて変更を加えていく  
\* \* 状況に応じて（感染予防観点から）コラージュ作成を別のものとする場合もある。

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

毎回の授業で下記の予習・復習・課題を行うこと。  
予習：指定されたテキストの章を熟読し、不明な点を抜き出し授業内で質問できるように準備すること。（予習：2時間）  
復習：本演習は実習を主とするため、自らの実習の中で、指摘された点について、ノートに記録しておくこと。その記録したことをその回の課題として、人の話を聞くという実習を30分行い、その実習の記録をすること（復習：1時間）。  
課題：授業内で録音した実習の逐語録を作成し、振り返りを行うこと。その逐語録を次の授業で提出できるように準備しておくこと（課題：1時間）。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

到達目標 と を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」、「コミュニケーション能力を身につけ、それらを、ビジネス、援助に実践的に活用すること」、「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用すること」に貢献することができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

「実務経験あり」病院臨床において、カウンセリングの応用の基礎技法として活用している。

**備考**

・ 状況により授業方法が変更になる場合は、決まり次第指示する。